

ABグループ（身体障害、他）

登場人物

榎島さん		避難所要員
後藤さん		町内住民
前田さん		町内住民
林さん		身体障害者、母が介護が必要
野口さん		町内住民
池田さん		町内住民

ライフラインがストップしてしまうと

みんなが一番心配するのはトイレのこと。

誰かが困っている時さりげなく声かけができるといいですね。

<ナレーター> 12月9日午前2時ごろ、豊橋地域に震度6の大地震が発生しました。

詳しい被災状況はまだ分かりませんが、ライフラインがストップ

してしまいました。夜明けとともに、地域の第一避難所に

近隣の住民が集まりはじめています。

後藤 「どこに行けば良いですか？」

前田 「あそこに受付がありますから、まずそちらへ行ってください」

後藤 「分かりました」

榎島 「こちらが受付です。名簿に記入してください」

林 「トイレは使えますか？お母さんがトイレに行きたいと言っていますか…」

池田 「小便是穴を掘ってやるしかありません」

小川 「新聞にくるむとかどうですか？」

後藤 「公園だとマンホールに仮設トイレをたてたりしますよね？」

小川 「小学校のトイレって水が断水してるから使えないよね？」

前田 「今は冬だからプールの水もないし…」

榎島 「小学校のトイレの便器にビニール袋をかぶせたのでそちらをお使いください。防災倉庫に簡易トイレがあるか確認してみます」

林 「母は介護が必要なんですけど、自分自身も手に障害があるので母を手伝ってくれる方も誰かいませんか～？」

野口 「私がやりますよ。私は身体障害者協会のボランティアをやってるんです。」

林 「それは助かります！」

野口 「それにしても寒いわね～」

池田 「体育館で人もたくさんいますから、風邪予防のためにこのマスクを使ってください。ボクいつも持ち歩いてるんで！」

榎島 「みなさん、毛布を持ってきましたのでこちらに並んでください」

野口 「やっときたわね～。林さんのお母さんの分ももらってくるから待っていてね」

林 「全然知らない人なのに、優しくしてくれる。地域にはこんなにいい人いたんだな～。もっと地域のつながりを大切にしなければ。ボクは障害があるけど、この避難所の中で何か自分にできることはないか見つけてみよう！」

Cグループ（聴覚障害者）

登場人物

ろう者新谷さん		ろう者
受付 高橋さん		受付
受付 近藤さん		受付
ろう者内藤さん		ろう者
住民 山本さん		近隣住民
ろう者浅倉さん		ろう者
ろう者北村さん		ろう者

～避難所に手話通訳はいますか？～

いない時はどうすればいい？

理解を求めるためにどんな説明が必要？

みんなが大変な時・・・

新谷 （ジェスチャー） ぼくは耳が聞こえません。ろう者です。

高橋 ー避難所の名前を指さしてー

「いろいろお尋ねします。名前と年齢と住所を書いてください」

（大きな声で言う）

新谷 必要なことを記入する。

高橋 (筆談)教室を指定しますので、そちらでお待ち下さい。係の者が一緒に行きますのでお待ちください。

山本 (イライラして怒った声で)

「時間がかかっていますね。まだですか？その人ひとりにかかり過ぎでは
ありませんか？」

高橋 「すみません、今やりますね」

山本 「もう少し待ちますけど早くしてください」

高橋 (筆談)避難者はあなた一人ですか

まわりの人 「けが人です。ばんそうこうはありますか」

高橋 「手当てできる人を呼びますのでお待ちください」

新谷 (筆談)いつまで待たせるのですか。早く案内してほしい。4人家族です

近藤 「案内します」 (私、自分を指さすジェスチャー)

(ろう者4人が案内されて行く。)

新谷 (筆談)筆談だけではわからないし、音声での放送は分からないので
手話通訳を呼んでほしい。

近藤 (筆談)非常時ですから手話通訳はすぐには無理です。

高橋 (筆談)避難者に対するお知らせの時はどうすればいいか不安です。
音声放送は聞こえません。

浅倉 (筆談)高齢者は文を読むのが苦手な人がいるのですよ。

近藤 (筆談)どうしても分からない時は受付まで来てください。

浅倉 (筆談)短い文でわかりやすく書いて欲しいです。

近藤 (筆談)はい。必要なことは紙に書いて貼り出しますので、時々見に来て下さ
い。

浅倉 (筆談)豊橋市の避難所70ヶ所に防災絵カードをろう協が配ったのでここ
にもあるはずです。受付に置いて使えるようにして下さい。

それは飲み物や食料の配給時または体調の様子を伝える為のもので、
カードを使ってコミュニケーションが取れます。

近藤 (筆談)そんなカードがあるんですか。どこにしまってあるか事務所で
聞いてみます。

Dグループ（聴覚障害者）

青山さん	50才	聴覚障害者
小森さん	60才	聴覚障害者
小森さんの息子	30才	ろうの小森さんと同じ家の2階に住んでいる。家は傾いた。手話ができない。簡単な単語しかできない。
町内会の谷山さん	40才	一般の人
サークル員原田さん	25才	手話サークルに入ったばかり

聴覚障害の人にとっては

手話サークルの会員さんの存在は心強いけど詳しい話は

通じないようです。停電して暗いと本当に困ってしまいますね。

青山(様子) 小学校へ到着まだ一番目。きょろきょろする。でも聞こえないことを伝えたいが、周囲を捜しても知ってる人もいない。身ぶりで、知らない人に何回も聞こうとするが、その場から逃げられてしまう。5人目くらいに、身ぶりを見て分かってもらう人がいた。紙はなかった。

青山 ※身ぶりで（私は聞こえません。）
（てのひらに、「うけつけはどこ」ときいて）

町内 谷山 あそこですよ。（指をさして身ぶりで答える）

青山 （ありがとう）。

（受付で） 青山です。避難してきました。どうしたらいいんですか？

※通じないでいる

※小森さん親子も避難してくる

小森 あっ、青山さん、無事でよかった。(手話)

青山 あっ、よかった、どうしたらいいか、困ってた。(手話)

小森 息子 青山さん、受付の人と話をしてきます。

※受付に行く

小森 息子 食べ物、飲み物はどうやって知らせてくれますか？何をしたらいいですか？

(受付) 名前と住所、学区を代表の人でよいので避難した人の分を書いてください。筆記用具と紙は、避難所に用意があるので持ってくるので、ここで待っていてください。

※用紙に書く息子さんが、全部書き終わった

※紙を持ってくる

青山 よかったあ。(手話)

小森 でも、息子が何かやってくれてるけど、まだ何も分かん。(手話)

※青山さん、小森さん、サークル員原田さんを見つけた

サークル員原田 あっ、青山さん、小森さん。大丈夫ですか？

青山 困ってる。(手話)

サークル員原田 私で何かできることがありましたら。(ゆっくり手話を交えて)

※青山さん、話したいことを話す…(早い手話で沢山話す)

が、サークル員原田さんは手話が読み取れず

サークル員原田 ごめん、私、指文字ぐらいしか分からない、お話できない、どうしよう、紙はないかしら。筆記用具もない。

※青山さん、てのひらに一文字ずつ書いて伝える。

でも、暗くて見えない。懐中電灯を探す。小森さんが持っていた。

小森 トイレに行きたい。

青山 手話：お水がほしい。お腹が減った。誰に聞けば分かるかな。

寒い、毛布のある場所はどこ？あの人、持ってる。どうしてもらってきたのかな？暗くて小森さんの手元が見にくい。

Eグループ（知的障害、他）

登場人物

柴田さん	45才	施設管理者
菊池さん	34才	自治防災会
荒川さん	61才	
荒川さんの息子	32才	重度知的障害者
内村さん	80才	小さなお孫さんと一緒、近隣住民
村田さん	82才	近隣住民

避難所で

来た人で順に毛布を配っていいでしょうか？

うるさい人には誰が注意するのでしょうか？

リーダーが不在の時にはどうしたらいいのでしょうか？

村田 他に行くところが無いから来た。寒いから、毛布ない？

柴田 体育館の2階にあるから、取りに行きますよ。

菊池 先に来た人から渡して、無くなったらどうするの？毛布は、何枚あるかわかっているの？

柴田 自分では判断できないので、市に聞いています。

村田 寒いから早くして！

内村 責任者に早く連絡を取って！

菊池 とりあえず、体育館に入ってください。

荒川 子どもが怖くてパニックを起こしているので、とにかく落ち着ける部屋がほしい。

柴田 あなただけではないので、待ってください。

荒川 息子 ギャーギャー！（奇声をあげる）

まわりの人 うるさいから、だまらせて！（何人も）

荒川 ここには入れないから、出ていきます。

柴田 困っている人が入れないのは、避難所ではないだろう。何とかしないと！責任者は来ないから、今いるメンバーでルールを作りましょう。

内村 寒いから、早く何とかしてよ。私たちはそんなメンバーにはなれないわ。

村田 役員はもっと若い人たちにやってもらって。

荒川 母 障害のある子どもがいるから、メンバーにはなれないから。

菊池 障害の子どものいる人は2階個室に行ってください。

内村 うちの孫が小さいから、やっぱり部屋がほしい。ミルクをあげたい、おむつも替えれない。オムツないの？

荒川 息子がお腹が空いたと言っているので、何かないですか？

柴田 市と連絡を取っているのですが、なかなか連絡が取れないので、判断できません。

菊池 避難所運営委員会を作りますので、自治会長、民生委員さんは集まってください。

内村 自分の町の自治会長が来てません

菊池 では、あなたが代わりに委員になってください。食糧班、衛生班、名簿係…。あなたは人望があるので、部屋割りをお願いします。

F グループ(知的障害者、他)

登場人物

大岩さん	40才	市役所職員（避難所要員）
森下さん	50才	町内会役員（自主防災会）
景子さん	23才	知的障害者
鈴木さん	51才	母親
高橋さん	63才	地域住民
山下さん	23才	地域住民（赤ちゃん連れ）
すづ子さん	88才	地域住民

配慮？ 特別扱い？ わがまま？

避難所で知的障害者の為に別室の準備がほしいという要望。

赤ちゃん・高齢者等配慮が必要なのは障害者だけではありません。

緊急性や優先順位を話し合い、心を広く持って、理解しあえる

ような場であるといいですね。

大岩 私が避難所要員の大岩です。みなさん落ち着いてください。状況が不明ですが、みなさん、ご協力をお願いします。

高橋 ここが避難所ですか？私は何とかここまで来れて、ケガもしておりませんので、何かできることはありませんか？

鈴木 私の娘は知的障害者なのですが、パニックを起こしてしまっています。
どうしましょう。

森下 この中で、医者や専門知識のある方はいませんか？お母さん、落ち着いてください。このような状況の時どのようにされていますか？

鈴木 すみません。私もあせってしまって、申し訳ありませんでした。別の部屋に行かせていただいて、落ち着かせてください。

森下 私が別室を見つけましたので、お連れしましょう。

山下 私も赤ちゃんを連れているし、お年寄りもいるのに、何であの子だけ特別扱いなんですか！？

すづ子 私も他の部屋に行きたいわ。

森下 みなさん不平があるとは思いますが、この方は知的障害がありますので、みなさん理解をお願いします。

山下 私の子どももお腹が空いてぐずっているし、おむつも変えたいんだけど！！

大岩 赤ちゃんのミルクの件は、今本部に確認をしていますのでもう少しお待ちください。

高橋 私の非常持ち出し袋の中にジュースがありますが、どうですか？

山下 ありがとうございます。

森下 自主防災の講習の時に、非常時のおむつの作り方を教えてもらったので、ビニール袋を開いて、その中にタオルなどを入れて簡易的におむつにしたらどうですか？

すづ子 私がタオルを持っていますから、これを使ってください。

山下 みなさん、ありがとうございます。

大岩 先ほどの障害者の女性は、落ち着かれました。

G グループ(視覚障害者)

登場人物

津川	50才	視覚障害。一人暮らし。独身男性。白杖。
松井	30才	女性。市の要員。
藤本	35才	女性。地域住民。子連れ。
西川	70才	男性。地域住民。妻を亡くした一人暮らし。
吉井	60才	男性。自主防災会。

付添がほしいけど

視覚障害者にとって、初めての場所はお手上げ状態。

付添がなければどこにも進めません。

非常時に他人に配慮する心を持つことができるかどうか。

津川 一人暮らしのため、通りすがりの人に連れて来てもらった。

通りすがり 私はAさんに頼まれてここまで連れてきたが、この後をよろしく。

※通りすがりの人、去る

津川 私は、白い杖一本で来た。全く目が見えない。誰か一人付き添いの人を付けてください。

松井 会長さん、付き添いの人を一人付けてほしいと言われているが、どうしますか。

吉井 ちよつとこの状況では難しいかなあ。

西川 何を言つとるんだ。こんな時にそんなんおるわけないじゃないか。

※その間、ずっと津川は立ちすくむ

松井 会長さん、どうしたらいいですか？

吉井 ちよつと待ってください。こちらは、他の用事で手一杯で…。

※藤本さん、振られる

藤本 受付ではみんな待ってるし…津川さん、誰か知ってる方とかいないんですか？

津川 う～ん。近所の酒屋さんか、大家さん来ていないかあ？私は壁伝いになら一人で歩けるが、まずは、はじめての場所は、付き添って案内してもらわないと。どなたかお願いします。

西川 俺が先にどこへ座るか聞いとるんだ。あんたは後。こんな時は皆、余裕がないんだ。

吉井 西川さん、あなたはいつもは理解のある人じゃないか…。津川さんは、ほとんど目が見えなくて、介助が必要なんだよ。こんな時こそ西川さん、何とか協力してくださいよ。あなたの力がいるんだよ。

西川 そうか～。目が見えんのか～。藤本さん、あんたも協力するだよ。

藤本 うちだって子どもがおるんだで困るよ～。一人で二人見とるだで。

津川 何とかして下さいよ～。

藤本 こういう時は、どうすることになってるの？マニュアルに書いてあるの？

松井 地域ごとに集まってもらってるか～。そこまで手の空いている方に付添をお願いしたいです。

藤本浩太 大人の会話を黙って聞いていた藤本さんの息子浩太君（7歳）が津川さんの手を取り「僕が連れてってあげるよ。」と言って誘導して歩き始める。

H グループ(車いすの身体障害者)

登 場 人 物

星野源英	20才	避難所要員（市職員）・・・市との連絡
神藤	40才	自主防災会（自治会）
近藤	23才	障害者
近藤	40才	障害者の家族
宮副	25才	地域住民
青木	40才	地域住民
星野隆輝	40才	地域住民

「避難所に来てない人はどうしているのかな」

「車いすトイレのない市民館には行っても生活できない」という声をよく聞きます。近隣の方はそんな時どんな行動をとるのでしょうか。避難所に行かない人には配給はないのでしょうか。

地震発生から4時間、まだ夜が明けないころに、地元の自主防災会の神藤さんと、避難所要員の源英さんが地元地区市民館にやってきました。

夜が明けました。地域の住民が集まってきました。

宮副 すいません、市役所の人はまだ来ていますか？

源英 私が、避難所要員の星野源英です。

宮副 近所の車いすの近藤君が来てないんですけど、何か情報はありますか？

源英 ちょっと分からないですが、自主防災会の神藤さん、何か情報は来てないでしょうか？

神藤 情報はまだ来てませんので、どなたか確認に行ってくださいないでしょうか？

隆輝 では、私が行きましょうか

神藤 ありがとうございます。でも、一人では危険で何かあるといけませんから、もう一人、どなたか一緒に行ってくださいませんか？

青木 では、私も一緒に行きましょう。

隆輝 よろしくお願いします。

※二人は近藤家に着く。家に多少被害がある。外から声をかける。

青木 近藤さん、いらっしゃいますか？青木です。大丈夫ですか？

近藤 大丈夫です。

隆輝 避難所ができました。小学校ですので、一緒に行きましょう。

近藤 小学校へ行っても、ちょっと車いすで使えるトイレが無いので、家に留まります。避難所には行きません。

隆輝 分かりました。ただ、ガスも水道も、止まっています。何か困っていることはありますか？

近藤 一番困っているのは、トイレのことです。食料はとりあえず、少しはあります。

青木 分かりました。一度戻って、防災会の方に、トイレが使えなくて困っている事を伝えます。

※避難所に戻って

隆輝 近藤さんは、家にいて、ご家族お二人とも無事でした。ただ、車いすで入れるトイレがなくて、困っておられます。

神藤 分かりました。避難所要員にすぐ報告、相談します。

神藤 源英さん、車いすで入れるトイレが無いので、避難所に来られない人がいます。何とかありませんか？

源英 この近くに、車いすで入れるトイレがないか、または、簡易トイレを手配できないか、市役所に連絡・確認します。

H2